

古代人間郡家の謎

奈良時代頃の川越は、武蔵国入間郡に属しており、上戸にある霞ヶ関遺跡には入間郡の郡家がありました。郡家とは、現在の市町村の役所に相当するものです。

遺跡の発掘調査では、郡家で働く役人たちが使用した土器や硯が多数出土しています。また、郡家の建物跡と見られる柱穴が筋をそろえて幾つも発見され、奈良時代の大型掘立柱建物が整然と並ぶ様子も確認されています。各地で発掘調査された郡家の遺跡では、建物が「コ」や「ロ」の字を描くように配置され、儀式等に使用される広場を建物で囲んでいたことが多かったようです。霞ヶ関遺跡の建物は全体の一部しか検出されていますが、各地の郡家と同じような並び方をしていた可能性がります。

しかし、霞ヶ関遺跡では奈良時代後半になると郡家と思われる建物群が姿を消してしまします。まだ発掘調査で見つからないだけなのか、それとも郡家が別の場所に移転したのか、古代の入間郡家にはまだまだ謎が多く残されています。



上空から撮影した、奈良時代始め頃の遺跡(平成9年6月頃撮影)。小さな黒い点が建物の柱穴



ブロッコリー機械利用組合

実は埼玉県はブロッコリー生産量が全国第3位。市内でも多

く生産されています。小さな緑色のつぶつぶは、1つひとつが花のつぼみです。アクがなく、加熱すると甘みが増すので、シチュー、サラダ、炒め物、煮物などさまざまな料理に使われています。

生産効率の向上と農業者の負担軽減のため、平成23年に設立したブロッコリー機械利用組合。現

在、7人の農業者が3つの機械を共同で利用しています。「品種ごとに生育時期などが異なるので、秋冬ものは10月～1月頃、春ものは4月中旬からが旬。茎が太く緑が濃いものがお薦めです」と組合員の皆さん。特に春ものは、柔らかくいつそうおいしいそうです。暦の上では春ですが、春ものはもう少し先。今から待ち遠しいですね。



「ブロッコリーはあまり日持ちしない野菜。取れたての川越産を食べてほしいですね」と組合長の塩野富雄さん(写真右から2番目)

今が旬！ 2月の川越野菜 市内の直売所などで購入できます

ハウレンソウ、コマツナ、トマト、イチゴ、ネギ、ゴボウ、カブ、ニンジン、サニーレタス、キュウリ、菜の花、サトイモ、ダイコン



出来上がった餅は見物客に配られ、寒さの中、つきたての餅をおいしそうに頬張っていました。

中でも「ツブシ」と呼ばれる所作では、6人のつきてが息の合ったテンポで杵を振りまわす。ほかの杵にぶつかるとなく餅をつく姿は、まさに名人芸といった感じで周りの見物客はその様子に見入っていました。

成 人式の前日に開催された南大塚の餅つき踊りに行ってきました。餅つき踊りは、名前のとおり白を数人で囲み、踊りながら餅をつきます。餅つきは6つの所作が連続して行われますが、その様子は、他ではなかなか見られない珍しいものでした。

編集後記

どんぐり